

株式会社インタラクティブィ 番組審議会議事録

1. 開催日時： 令和 6 年 5 月 29 日（水） 11 時 00 分～13 時 00 分

2. 開催場所： JCOM 株式会社会議室 3 階 Room1 会議室

3. 委員の出席：

委員総数： 7 名

出席委員数：5 名

出席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）

植田 益朗、音 好宏、片山 哲郎、村上 憲一、吉岡 忍

放送事業者側出席者：

株式会社インタラクティブィ

代表取締役社長

笹島 一樹

ディスカバリージャパン株式会社<LaLa TV>

取締役

林田 真由

編成企画部 部長

伊妻 顕子

編成企画部 LaLaTV チーム長

河端 亜矢子

エーアンドイーネットワークスジャパン合同会社<ヒストリーチャンネル>

代表執行役員社長

ジョン・フラナガン

編成制作部ディレクター

福井 靖典

事務局：

JCOM 株式会社

メディア事業推進部 鳥居 修平、斉藤 弘之、水野 唯音、廣田 結子

4. 議題

株式会社インタラクティブィで放送する 6 チャンネルの内、「LaLaTV」、

「ヒストリーチャンネル」の番組内容、編成内容について。

5. 審議内容

①「女性チャンネル ♪LaLa TV」の編成およびオリジナル番組『島崎和歌子のどうしてる？更年期』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ・非常に明るい番組でエピソードも具体的で、いい番組だと思う。
- ・世の中にはドラマやコンテンツが社会問題、家族、愛を題材にしているものがほとんど。そんな中でも、地上波では取上げにくいテーマを敢えて取り上げており、且つCS局の中でもLaLa TVならではの番組だと思う。
- ・MC やスタジオ出演者、アドバイザーの医師の解説もキャラクターも非常に良い。
- ・視聴ターゲットがはっきりしているというのはCS局としては正しいと思う。
- ・ターゲットを女性に絞った番組、及びチャンネルコンセプトではあるが、ジェンダーレスを謳われている昨今の時代に合っているのかという点において疑問である。そういった点において、今後の新たなチャンネルコンセプトを模索していくべきと考える。
- ・番組中の「個人の感想です」とのテロップ表示は、局の責任回避を感じる。「個人の感想ではあるが、医師の意見のアドバイスを得て放送」など、局として放送責任を意識した表示とすべきと考える

<事業者回答>

前回制作した「クワバタオハラ ゆかいな更年期」での反省を元に、実際に更年期を経験したキャストをブックイングした。新シリーズではシリアスにならずに更年期テーマを語りたいと考えた。

今回の番組では、視聴者が一番興味あり、且つ明け透けには語れないテーマを敢えて取り上げた。御指摘頂いた通り「女性チャンネル」というコンセプトを続けていくのは非常に悩ましい状況であり、新たなコンセプトを模索していきたい。

現状のチャンネル視聴者のメインは女性なので、引き続き女性に向けた作品を放送していくが、今後は男性の視聴者も同伴視聴できるような番組作りも意識していきたい。

番組制作においても、社会問題、家族、愛だけでなく様々なテーマのものも取り上げ、視聴者の視野が広がるような制作を目指していきたい。

②「ヒストリーチャンネル」の編成およびオリジナル番組『Defending JAPAN S2』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ・今の日本を取り巻く環境を分かりやすく説明していたが、アメリカ側の考えを描き、問題提起や解決策などがあるとなお良かった。

- ・冒頭部分のスーパーテロップ情報が多すぎて、読み切れなかった。もう少しナレーションと情報の整理が必要だと感じた。

- ・米軍、自衛隊幹部経験者が多数出演し、軍事的な危機を語り、「非軍事の交渉のためにも軍事力は欠かせない」とのパワーバランスの現実を示す。他方、学校での近現代史教育の日中比較など、軍事以外の論点も提示され、ミリタリー番組と一線を画している。

- ・番組のターゲットが分かりづらく、制作者の意図が読み取り辛かった。

- ・近現代史を学校の授業で端折りがちなのは太平洋戦争などがある為だと理解しているが、今回の番組はあまりに一面的すぎる。

- ・防衛力の大切さを訴えるのなら別のコメンテーターをブックキングすべきだった。

<事業者回答>

番組にエンタメ要素を入れる理由は若年層やライト層にも届けたいと考え、とっつきやすさを意識した。今後はYoutubeでも展開して間口を広げていきたい。

今回の番組を制作した背景に、視聴者は日本の防衛に関する知識が不足していると感じたため制作に至った。

番組内に問題提起や解決策が必要であるということは理解しているので、今後の制作に活かしたい。また今後は一面だけではなく、客観的な多方面での見解を取り入れたい。

以上